

# 特別支援学校と三木北高校

## ～すばらしい交流に感動～

青山自治会連合会



2020.4.24

神戸新聞

### 特別支援学校に寄贈へ

### 三木北高 職員と生徒一丸マスク作り

三木市志染町青山6の三木北高校が、新型コロナウイルス感染症の予防に役立ててもらおうと、布製マスクを作っている。交流のある特別支援学校に寄贈するため、職員と生徒が一丸となって取り組んでいる。

同高校は以前から、三木特別支援学校（三木市志染町青山7）と行事などで交流。本年度からのじぎく特別支援学校（神

三木特別支援学校の小林義直校長（左）にマスクを手渡す三木北高の吉田尚美校長  
＝三木特別支援学校

戸市西区）との連携も始まった。マスクの寄贈は、両校の子どもたちと保護者の健康を願い同高校職員が企画した。

8日の始業式で生徒に自宅での製作を呼び掛け、ホームページに作り方を掲載。後日生徒から回収する予定だったが、感染拡大を受けて登校日がなくなった。生徒から集めることは難しくなったが、少しでも早く届けようと職員が約30

個を用意。除菌して一つずつ包み、「今こそワンチームで頑張りましょう」などのメッセージを添えた。

21日には同高校の吉田尚美校長が三木特別支援学校を訪れ、小林義直校長に手渡した。小林校長は「先生方の思いが詰まっている。一日も早く生徒らに郵送したい」と感謝した。在校生が多いのじぎく特別支援学校には、高校生が作ったマスクが届き次第贈るといふ。

（大橋凜太郎）

